

# 国内の産業技術動向 Vol.6

## フィンテック市場拡大の恩恵を受ける国内企業に注目

### 新しい金融サービスが次々と登場

フィンテックとは、ファイナンス（金融）とテクノロジー（技術）を組み合わせた造語で、AIやビッグデータ、ブロックチェーンなど、情報技術を活用した金融サービスや事業を指す言葉です。スマートフォンの普及や技術革新の進展などにより、利便性の高いサービスが続々と登場しています。

### ベンチャー企業参入で市場は活況に

身近なところでは、PC・スマートフォンを利用した銀行口座の残高確認や振り込みができるインターネットバンキング、クレジットカードやコードなどによるキャッシュレス決済などが挙げられます。また、企業向けのクラウドを利用した経理・会計システム、個人が利用する金融サービスと連携した資産管理といったサービスも数多く普及しています。

近年ではベンチャー企業が独自技術を利用して、

不特定のユーザーから資金調達を行うクラウドファンディングなどの事業に参入していることもあり、フィンテック市場は活況を呈しています。

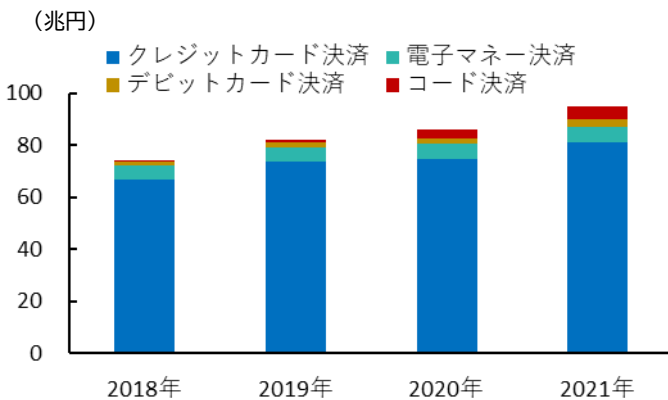
### AIを活用する分野の市場拡大にも期待

小売りやメーカー、省庁など幅広い事業者に対してキャッシュレス決済サービスを提供する会社としてデジタルガレージが挙げられます。同社は様々な決済手段に関するサービスを提供しており、その利用者拡大に伴う業績の成長が期待されます。

資産管理サービスを提供するマネーフォワードは、クラウド型の個人向け家計簿アプリで1,200万人規模のユーザーを抱えています。加えて、法人向けの経理・会計サービスの拡販も進めており、業績の拡大が予想されます。

その他には、AIを活用したロボアドバイザーの事業を展開するウェルスナビや、ビッグデータ分析を活用した金融分野の情報提供事業を進めるミンカブ・ジ・インフォノイドなどがフィンテック市場拡大の恩恵を受ける国内企業として注目されます。

### キャッシュレス決済金額の推移



※期間：2018年～2021年（年次）

出所：日本銀行、一般社団法人日本クレジット協会、一般社団法人キャッシュレス推進協議会の資料をもとにアセットマネジメントOne作成

### 市場拡大が予想される主なフィンテック



※上記はすべてのフィンテックを示すものではありません。

※当該個別銘柄の提示は、銘柄推奨を目的としたものではありません。  
※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

# 投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

## 【投資信託に係るリスクと費用】

### ● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券(REIT)などの値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

### ● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

#### ■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%(税込)

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

#### ■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)：上限 年率2.09%(税込)

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書(交付目論見書)等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用(上限額等を含む)を表示することはできません。

※ 手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

## 【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。